

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375700693		
法人名	有限会社米澤福祉会		
事業所名	グループホーム「よつ葉」		
所在地	愛知県知多郡南知多町内海字南側26-1		
自己評価作成日	2019年11月1日	評価結果市町村受理日	令和元年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ごみ(和)の会
所在地	愛知県名古屋市中種区小松町5丁目2番5
訪問調査日	令和1年11月27日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

よつ葉が大切にしていること①日々の暮らしを大切にした支援。日常生活で行われる掃除、洗濯、調理等は自分たちで行い、他の利用者との協調性を大切にしている。「～に行きたい」「～したい」という声を生活に反映している。②入所前の生活の継続。入所後もこれまでと変わらない生活をしていただくために、これまでの生活習慣等を十分に把握し、実践している。③地域とのつながりを大切にした支援。毎日の買い物、地域高齢者サロンへの定期的な参加、ボランティアの受け入れなどを行い、施設と地域の関係性から「よつ葉で生活している〇〇さん」と「地域の〇〇さん」という関係づくりを力を入れ、利用者の皆さんが生活しやすい環境づくりをしている。また、近年高齢化、認知症の重度化が進んでおり、これまで個別支援を中心としていたが、集団支援も積極的に取り入れつつ、「皆さんで楽しむ時間・空間」の提供にも力を入れている。ターミナルに向けた取り組みも準備しているところである。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームよつ葉は、江戸時代の家並みが残る地区に建つ1ユニットの事業所である。海や山など豊かな自然に囲まれ、井戸や畑のある広々とした庭を持ち、日常的に屋外活動ができる環境の中、花火見物やバーベキュー大会等を楽しんでいる。「これまでと変わらない普通の暮らし」の理念の下、例えば自由に外出できる環境を整備する等、利用者の望む生活や、その行動の理由を個別に検討している。また終末期ケアの中で「その人の望む生き方(死に方)とは」に向き合い、個々のケース毎に、医師、看護師と密に連携し、家族の思いを大切に丁寧に支援している。入居者の変わりゆく状況を常に把握し、その都度ケアの方向性を再検討しながら支援に取り組んでいる。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は「普通の暮らし」を意識した支援を送っていると評価している。理念の共有がうまくできているか不安があるが、今後も個別の「普通の暮らし」を意識した支援を心がけていきたい	理念は玄関に掲示している。パンフレットにも掲載している。利用者それぞれに合わせた支援に努め、「その人らしい普通の暮らし」の具現化に取り組んでいる。また、職員へ理念が浸透するよう、月1回の勉強会開催を試みたり、個別に外部研修へ参加し、その後職員間共有を図っている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	変わらず利用者さんがこれまで暮らしていた地域との交流の機会を持つ努力をしている。地域との交流では、中学生ボランティア、職場体験受け入れ、実習生の受け入れなどを行っている。	地域サロンや祭礼、町の文化展へ出かける等、可能な範囲で地域交流を継続している。地域の方とは、クリスマス会に来訪があったり、野菜や魚やミカン等を分けて下さる間柄である。今年度から、地域の障がい者施設との関係が築かれ、月1回の来訪がある。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	10月に文化展、12月に、町の認知症フォーラムで作品を掲示する機会を設けさせていただいた。町の認知症協議体に属し行方不明の型の創作体制づくりも行っている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	よつ葉新聞の発行を行ったり、SNSの活用もしている。定期的発信ができるようにしたい。	入居者、家族、民生委員、町役場や包括支援センター職員の参加により年6回行われている。また、以前入居の利用者家族の参加も得ている。防災訓練を運営推進会議内で実施し、参加者から意見をもらい運営に活かしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括ケア会議に毎月開催したり、雲煙推進会議の参加で交流し意見交換している。	南知多町の認知症部会に所属し、月に一度の会議に出席している。役所及び地域包括支援センター、他事業所と連携し、作品展や徘徊による行方不明者捜索のネットワーク作りに参画している。非常災害時の避難所での課題を役所へ提言する等、積極的に協働している。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束については、さらに学ぶ必要があり、普段の生活を見直す機会を持ちたい。	身体拘束をしないケアの方法を、今後の展開を予測しながら皆で話し合っている。行動の要因を個別に検討して対応している。運営推進会議の際に事例発表をして拘束をしないホームの方針を周知している。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常識の範囲の中での支援をしている。改めて自分の行動や発言が虐待になっていないか、不快な思いをさせていないかを意識させる必要がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	玄樹は行なってはいない。しかし、要望があれば研修の機会を持ったり、外部研修に行きたい職員がいれば、参加できるよう配慮している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定があるたびに文章で通達している。契約時間は十分にとっている。ありがたいことに、疑問点があれば、運営推進会議や、時間がある際に来所してくださり、質問をしてくださる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価の活用や運営推進会議、また常に家族が訪問しやすい環境作りを行い、意見を言いやすい関係の構築に努めている。定期的に、ご意見を伺う姿勢も築きたい。	家族が気軽に意見が言えるよう、訪問しやすい環境作りに配慮している。月に1度は、LINEやメール等で近況報告したり、2ヶ月に1度はおたよりを送付している。また、花火大会や日帰り旅行等のホーム行事に参加頂いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りや月1度のミーティングなどを活用し日常的に、意見を伺える関係性に務めている。職員の意見が反映されるまでに時間がかかるという意見もあるがそれが、適切か判断することも運営では必要だと考えている。	申し送りやミーティングの際に意見提案できる機会がある。職員から上がった意見は、可能な限り対応して運営に活かしている。今後、外部評価の項目を活用し、各自で自己評価を実施し、集計した上で会議を開催し、意見の聴取や活用する事を検討中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	パートも有休を取りやすいように、話し合いも行った。また、休憩時間も見直した。給与の水準は低いとの意見もいただいているが、その水準を上げるように会社は努力を行なっている。やりがい、向上心の点では管理者、会社の努力は必要。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修を継続的に行なってきたが、職員不足が原因で、おこなえていない。しかし、外部研修に参加できる機会を設け一人一人の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部のグループホームとの交流機会はあり、正職員の参加を中心としている。また、新人職員は、他グループホームへの研修をおこない、学ぶ機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	週末に帰る機会を作ったり、自宅に気軽に帰ることができるよう、ご家族との話し合いで、利用者の状態に対応している。「不安」は認知症の進行に影響を及ぼすことを職員も理解しているので、その支援の大切さは理解できている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	そのように努めている。また、メールやLINEを活用し、直接意見を言いにくいご家族の意見を伺うようにしてからは不安な点などもたくさん伝えてくださるようになった。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて、往診、福祉用具レンタルや購入のを行い、その際家族とも話し合いを行っている。利用者の思いをくみ取り、家族へのおしつけや負担にならないように気をつけている。		
18		○本人と共に過ごしえあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	まだまだ職員中心ではないかと思うところ実際はある。「イエス」「ノー」だけの答えを求めめるのではなく、今の気持ちを伝えられる環境づくりに努めたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の協力があることで、利用者の生活も安定したものになることをご家族に伝えるようにしている。一方、職員は個人的な意見をご家族に伝えることはやめ、アセスメントやモニタリングを活用し様子を伝えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	そのように努めている。しかし、職員の不足はその阻害要因となっている。現状できることを職員と共に話し合い、良い支援に努めていきたい。	親しかった友人に連絡をとったり、以前の飼い犬に会えるよう計らったり、自宅へいつでも帰れるよう家族に協力を要請したり、地元の花見や、寺周り、地域サロンへの参加等、個々の馴染みの人や場所との繋がりを大切にして支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	基本的には、利用者同士が認め合い、支え合う環境づくりを意識している。揉め事等を起こすご利用者に対し、戸惑いや不満を抱く職員もいるが、「病気だから」と解釈せず、その利用者の気持ちも汲み取れる支援も行えたらと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所となったご利用者のご家族が定期的な訪れ、会議や行事に参加して下さっている。今後支援を必要としていれば、そのように努めたいと思う。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや希望に沿った支援をと考えているが、ミーティングでは、ご本人の思いに沿って深く掘り下げた話し合いが十分にできていなかった。職員の意見を聞いて、会議のあり方を検討する必要がある。	の把握をしている。家族からの聞き取りを密に行い、過去やこれまでのホームでの生活を踏まえて、思いや意向の把握に努めている。心身の状態把握には、水分摂取量や排泄の状況も参考材料の一つとして取り入れ、検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご家族に記入していただいて、訪問時にも確認するようにしている。ご本人の気持ちも確認するよう、日頃から意識している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の朝の申し送り健康状態、最近の一日の過ごし方の把握をしている。ご本人がどのような生活を望んでいるか、今日をどう過ごしたいか丁寧に考え支援していくことがとても重要。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングでは、現状の意見交換が中心となっていた。さらにご本人の思い、これまでの生活などを理解できる意見交換の場を作り、ケアプラン等に生かしたい。	半年毎にアセスメントを実施。モニタリングと計画の見直しは3か月に1度行っている。家族が来所の際にアセスメント結果を報告し、意見を聞いている。また、担当職員が月に1度作成する「日常生活報告書」を計画見直し時に活用している。更新された計画は、閲覧で職員間共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の記入漏れが多かったが、職員通し声を掛け合って記入漏れを防ぐようにしている。また、申し送りを丁寧に言い漏れを防いでいる。正社員は個別日常生活報告書を作成し意識するよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診への切り替え、ご家族が遠方のための通院代行など柔軟に対応している。また、急にご家族が訪問、外出や外泊があってもご家族と過ごされる時間を大切にしていたためその時間を大切にいただくよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日常的に買い物に出かける機会を設け、利用者と出かけるよう努めている。職員も散歩に積極的に出かけるようになった。地域行事への参加は多くはないが、できる範囲で勤めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医でお願いしている。終末ケアへ移行している利用者は、往診可能な医師へお願いしている。延命を希望しない、家族との時間が通院時しかない高齢の利用者への大切な支援は何か悩む点もある。	かかりつけ医への受診は家族支援のもと行われている。精神科への受診については、医師に日常の様子を説明するため、管理者が家族代理で同行している。週1回の訪問看護により入居者の健康管理が行われ、24時間オンコールで対応可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に往診医の紹介を頂いたり、利用者の状況を見て往診への切り替えのアドバイスをいただいた。訪問看護に頼りきりになっていた爪切りのケアは自分たちで行い、看護師の意見を取り入れるように関係づくりの見直しも行った。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、医師によってカンファレンスへの参加が異なるが、参加できない際は、家族に事業所側の意向を伝えてもらったり、手紙を書くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人には伺いにくい点もあるため、ご家族がどこで最期を迎えたいかを話す機会を都度設けている。その際、よつ葉でできる範囲や緊急時のこと、今後予測されることを看護師と連携を図りご家族に伝えるようにしている。	入居者の状態により、往診医、訪問看護と連携を図り、家族の思いに寄り添い支援を行っている。必要に応じて、医師、看護師含め、家族に状態の説明を行っている。終末期支援の振り返りを行い、運営推進会議で終末期の在り方について話し合われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	往診医、訪問看護師に急変時の対応を伺っている。利用者の状況が変わった時に、今後の予測を立てるにとどまっているため、不安等が職員にはある。定期的に行うよう勤め、また、その担当者を作るなどの工夫をする必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回行なっている。全国的に水害も増えているため、内容と回数を増やして訓練を行う必要がある。10月に、運営推進会議内で避難訓練を行った。地域の方、役場の方とも意見交換ができたので、今後も行い、都度改善できるよう勤めたい。	地震、津波想定と火災想定避難訓練を実施している。夜勤者には、災害時の手順の確認を個別で確認している。10月の運営推進会議時に避難訓練を行い、役場職員、民生委員、家族と共に訓練の振り返りを行い、改善点を話し合った。水、食料の備蓄の他、玄関に入居者の連絡先付きの名札、ペットボトルの水、ライトを巾着袋に入れ、すぐ持ち出	夜間想定を含めた避難訓練の実施が望まれる。

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い、態度が利用者の生活の障害になってはならない。ここは誰の生活の場所かをしっかりと考え、働く職員は何のために働いているのか、しっかり意識できる環境づくりを継続していきたい。	料理が得意だったが、10年間料理をしていない入居者に対して、入居後少しずつ料理の参加をしていただき、昔出来ていたことがまた出来るようになる等、一人ひとりの生活歴を大切にし、得意であった事の再チャレンジの機会を作っている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の意見では、そのように勤めていると答えているものの方が多かった。管理者の立場として、それがより具体的で、日常的に実践できる環境づくりを会社側と話し合う必要がある。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	十分に実践できているとは言い難い。ただ職員の気持ちの中に、ご利用者を思う気持ちは十分にあるので、それを引き出す環境づくりに管理者は務める必要がある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員の着させやすい服の日もあるが、声をかけどれにするか重度の利用者の場合でも話しかけている職員もいる。その気持ちや考えが浸透するとなお良い。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事量が落ちた利用者さんには食べたい物や状態に応じては栄養補助食品を交えながら個別の食事に行っている。食事の形態についても話し合っている。準備や片付けも利用者さんが各自担って行っている。	献立は、普通の家庭のように、その日食べたい物を冷蔵庫にある食材を見ながら決めている。週4回入居者と共に食材の買い物に行く。気候の良い時にはお弁当を手作りし、庭のテラスで昼食会をし、気分転換を図る。また、クリスマスにはバイキング、正月に向けてのおせち作り等の季節毎の行事食があ
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事量の記録が必要な人は個別に取っている。また、食事の形態も必要に応じて変えている。口から食べることを大切に、状態に応じた支援をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	往診の歯科医師等の指示のもと、口腔ケアの重要性は理解しており、職員も意識している。医師と相談し、勉強会が開催されるとより向上心が持てると思う。	

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿のチェックは必要に応じて行っている。排便は、その日の状態に影響を及ぼすことも多いので、周期を極力把握し体調管理に努めている。排泄も自力でできるよう、自尊心を傷つけない支援を心がけている。	出来るだけ普通のパンツで過ごしてもらう事を基本に支援をしていたが、パンツで失禁した時の不快について入居者同士で話をしているのを聴き、本人に合った支援を検討し直し、部屋にポータブルを置けば間に合う人、リハパンの方が快適だという人、個々に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼る前に食事や運動を通してできることを考えるようにしている。季節の変わり目で水分量の多少を調節し、予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に利用者の希望に沿って、入浴ができるよう、曜日も時間帯も決めていない。入浴が負担となる利用者さんに関しては、曜日を決めている。職員は入浴支援を一生懸命行っている。	入浴の曜日、回数、時間は本人の希望で決めている。入浴をいたがらない方には、職員それぞれの声掛けの方法を持ち、入浴して頂けるよう工夫している。同性介助を希望の方にはそのように対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠が十分に取れるように、日中の活動ようを増やしたり、また、医師と相談して、不必要な薬を減らすようにも努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問看護師にも服薬内容の情報を提供し、分からないことに対してアドバイスを頂いている。また職員も確認しやすいように、服薬一覧表を作成している。副作用に対しては、もう少し関心を持つ必要がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員一人ひとりの気持ちの中にはこの思いがある。これまでよつ葉が大切にしてきたこともこの支援なので、職員間で共有し引き続き丁寧に支援を続けて行きたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	そのように努めている。季節によって外出が難しい時もあるが、職員は「戸外」を意識している方だと思う。帰宅願望、ご利用者が発言した地域に耳を傾け支援を行なっている。	日常の食材の買い出しの他、地域のサロンへの定期的な参加、お寺参り、入居者の地元の認知症カフェ、誕生日ショッピング等、本人の習慣や希望による個別の外出が充実している。また、年1回家族も含めて日帰り旅行イベントがあり、今年度はサポートイン南知多へ出掛けた。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理をご本人で行っている方はいない。お小遣いはご家族お要望もありに施設管理となっているが、財布を持ち一緒に買い物に行く利用者も居る。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に使用できるようになっている。また、ご家族側からも気軽に連絡を頂き、利用者さんと話をされることもある。年賀状もご家族に書く利用者さんがいる。テレビ電話も活用している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員の大きな声、テレビの音量など気をつける点は多々ある。狭い空間なりに利用者の居心地を考え工夫し、改善する余地はまだまだある。	リビングには畳コーナーがあり、ソファ、椅子が配置され、自由に好きな場所で過ごせるようになっている。廊下、壁には入居者の作品が飾られている。外のテラスには花の寄せ植えや、家庭菜園があり、入居者が水やりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	そのように支援している。基本的には、利用者の行動に任せ、ご本人で決められない場合は、利用者にとって過ごしやすい場所作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	近年、ご家族の持ち込み家具が簡素なものになっている。馴染みのものの持ち込みがどのような影響を与えるかを個別に行い、居心地の良い環境づくりに努めている。	居室入口には銘々のれんをかけ、プライバシーを守りつつ、共用部との温度差が無いよう配慮している。北側の居室は天井が高く天窓より陽が差し、明るい。部屋には自分で作ったぬいぐるみや作品等好きなものが飾られ、個々に安心して過ごしやすい空間づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	標識・手すりを活用し自分で判断したり、行動できるように工夫はしている。また、利用者さんによっては居室にポータブルトイレを設置し排泄の自立につなげている。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホームよつ葉

## 目標達成計画

作成日: 2019年 12月 20日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなるよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	ミーティングでは、利用者一人一人の「思い」に対して深く話し合う機会が少なかった。また、職員は、日常生活の会話においても利用者さんを「知ろう」という姿勢が感じられなかった。	利用者さん一人一人が望む生活について考え、話し合い、実践へと移す。	まずは、利用者さんとゆっくり「会話を楽しむ」時間作りを探る。日常的な「会話」を通して利用者さんの要望を見つけ、ミーティングで話し合う。	12ヶ月
2	36	言葉遣い、日常の所作、介護の方法、基本的な姿勢を今一度見直す必要がある。外部評価を通して指摘された点が数多くある。	日常の行動、態度を見直し、職員同士指摘し合える関係づくりの構築 日常のよつ葉を見ていただき、家族や地域の意見を伺う。	外部評価での指摘点を確認する。まずは、現状を知り、どうなることが利用者さんにとって良いことなのかを時間をかけて話し合う。	12ヶ月
3	35	年2回の避難訓練を行なっている。昨今、災害が多く、地震や津波だけでなく、集中豪雨や合戦の氾濫も起きている。それに対応する必要がある。	夜間避難訓練の実施と、避難訓練の回数を増やす。運営推進会議での実施	防災担当者による訓練の実施と、犬種会、講習会への参加。年2回の避難訓練を3回、ないし4回の実施をする	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。